

令和7年度 眉山活性化委員会（第2回）

議事録（要約）

開催日時 令和8年1月23日（金） 午前10時から

開催場所 徳島市役所8階 庁議室

- 議 事
- (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 委員紹介
 - (4) 令和7年度眉山未来プロジェクトについて
 - (5) 閉会

出席者・委員6名（山中会長、瀬尾副会長、青木委員、柏原委員、内藤委員、渡辺委員）
・事務局他

【会議の内容】

(4)令和7年度眉山未来プロジェクトについて

（会長）

キッチンカーの電源について、展望広場では発電機を持って行かないといけないのか。

（事務局）

電源はいくつかある。事業者によっては大容量の電源を使うこともある。今回は発電機を持ってきてもらって運用していただいた。あまり電気を使わない事業者は電源を使ってもらったり、使う事業者は料金を支払ってもらったりすることは可能であるため、そういったことも含めて検討していきたい。

（会長）

電源はあるが容量が足りないということか。

（事務局）

事業者によっては、フルで使うと電源が落ちてしまうことがあるため、協議しながら柔軟に対応していきたい。

（会長）

イベント時のパラソル、椅子や机は、市で用意されたのか。

（事務局）

イベント時のテント等については市で用意して設置した。

(会長)

キッチンカーの時はないのか。

(事務局)

そのとおりである。キッチンカー支援の時は今ある公園施設で対応した。

(委員)

実証実験として様々なことをされているが、今年度はサウンディングによる事業計画の策定とあるが、実証実験としてのイベント支援は続けるのか。続けるのであれば、改善しながら継続し、継続していることもPRすればいいと思う。

(事務局)

実証実験としてにぎわいイベントやキャンプイベントとして取り組んだ。昨年度のびざんミーティングの中でステージイベントの要望があり、今年度のイベントアンケートの中でもステージイベントの希望が多かった。それも加味して来年度行いたい。継続性が重要であることも認識しており、民間事業者もイベントに参画してもらえたので、可能であれば継続していきたい。費用が掛かるので、事業者の意欲を掻き立てるような取り組みをやっていきたいと思っている。

(委員)

イベントの中でモバイル遊具の mopps などがあったが、対象は大きめの子どもと思われる。イベントの際は、子どものための遊具や託児について考慮してもらえたらと思う。

(会長)

イベントは天候に左右されるので、その対策について考えておくのは重要である。それにより、継続性も全然違う。また、眺望確保のための伐採については、そのスポットには中々行かないが、そこは展望広場からは見えるのか。あそこまで行けるルートは見えないような気がする。

(事務局)

その点については課題として認識している。去年は木の伐採を行ったが、継続して取り組んでいきたい。西の方に何かあることを認識してもらうことは重要だと考えている。

(会長)

展望広場に行って終わりというのが多いと思う。ベンチや東屋があると思うが、本当に欲しいのはテラスなどの眺望を見ながら休める場所である。眺望側にテーブルやイスがあって座れるような施設。そのような施設を実験的に作った際に、そこに30分座ってくれるかがすごく大きい。そのようなスポットとテイクアウトなどが繋がれば、眺望を見ながら1時間座ってくれると考えられるし、そのような事例もたくさんある。眺望、休憩、食べ物というパッケージにできるような環境づくりはかなり重要である。そのような実験を考慮してもらえたらと思う。

(委員)

気になったキーワードとして、野鳥、夜景、デザイナーズチェアがあげられる。カフェなどの施設を作ってお金を落としてもらおう方向性と、チェアと夜景、野鳥のさえずりが聞こえるスポットの方向性は相反するかもしれない。ただ、主張は控えめだが、来園者が家族連れだけではないことを考慮すると悪くない。図書館で本を読みながらゆっくりする人が屋外でもゆっくりできるベンチや木陰があり、鳥のさえずりが聞こえるような、しっかりと静かに充実した時間が過ごせるコンセプトも入れておくといいと思われる。宣伝はしないが、多様な層の来場者のことも考慮されていることでクオリティが上がるのではないかと思う。

(事務局)

ガゼボの説明をさせて頂いたが、ガゼボから少し東に寄ったところ、林間駐車場のすぐ西側にも展望施設はある。その辺りは木が繁茂しており、視界が遮られている。野鳥のさえずりを聞きながら休憩できるようなスペースとしてポテンシャルがある。伐採の検討をしつつ、全て伐採するのではなく、環境にも配慮しながら、ベンチも増やすなど、来年度以降も取り組んでいきたい。

(会長)

ガゼボ周辺に手を加えるのであれば、わざわざキッチンカーを展望広場に上げなくても駐車場で展開して、そこからテイクアウトで広がってってもらおう方向性もいいと思われる。パークセンターもそうかと思うが、駐車場のそばにお店があってそこから色々なところに行ってもらえる場所の選定も検討してもらえたらと思う。

(委員)

シンボリックな像を置くことは検討しているのか。

(会長)

いわゆるフォトスポットのようなものと思われる。

(委員)

アニメの彫像やアルファベットの BIZAN など、いろいろ難しいと思うが、ご意見あれば聞かせていただきたい。

(事務局)

そういった点はいろいろな方からご意見をいただいている。映えスポットに「BIZAN」、もしくは「TOKUSHIMA」、というオブジェを作っていけたらと思っている。シンボリックな物については、西側の海月の横に丘のような箇所があり、そこが活用されていない。そこは現在、木に囲まれて見えないが、そこに仕掛けを作ると東を望めば朝日、西を望めば夕日が見えるといった場所としてアピールしながら施設設備に向けて取り組んでいきたい。

(会長)

イベント毎に何か残していくような形をとってより良い場所にしていってもらえたらと思う。よく、寄付ベンチというが、寄付テラスというような名前付きの施設を置いていくのもいいのではないかな。

(委員)

出店者からのアンケートでは、日影や、休憩施設、傾斜を整えることが必要との声があった。事業者からは事業者用駐車場スペースが必要などの課題が出てきていた。東と西の周遊など、全体的な課題をクリアするための進め方はどうしていくのか。全体的にプロデュースする人が必要とのご意見が以前出たかと思うが、昨年度作った素案を反映していくようなものにするのか。全体をデザインした中で、パークセンター、RV パークを整備していくのか等、どう進めていくのか教えていただきたい。

(事務局)

全体プロデュースについては、眉山未来プロジェクトでお示ししている。来年度については、まず西側が課題であると考えている。眉山公園はロープウェイで上がると、展望広場には行っていたけど、会長からご指摘があったように、西側に何かあるかを中々認識してもらえていない点がある。第一期として、西側部分を整備していきたいと考えている。その中でサウンディング調査を実施し、具体的に民間事業者が興味をもたれている施設を聞き取りし、民間事業者の力を借りながら西側の整備を進めて成功事例を作った上で、東側の整備を進めていきたい。全体を意識し、バランスを取りつつ、まずは西側を整備していきたい。

(委員)

ロープウェイを降りたところに案内板がないと先に何かあるのかわからないと思われる。初めて来園した人が、地形図のような地図を見ながら行くのは難しい。ぜひ案内板を検討していただきたい。

(事務局)

より分かりやすい案内板は重要になってくると思われる。まずは西側に何があるかを視覚的に分かってもらえるように案内板を充実させていきたい。

(委員)

デザインも統一させてないといけないし、目につくいいものを探っただけならと思う。

(会長)

一目で見えないとしたら、園路の入り口に何か置く、その箇所に写真で次の箇所が分かるようにするなど、順次誘導していくやり方があげられる。駐車場から園路など、実験的に見せる工夫をしていってもらえたらと思う。

(委員)

様々なイベントが開催されており、眉山の変貌を感じる。このようなイベントが定着し、認知されていけばよいが、広報とくしまや公式ホームページを見てきてくれる人はそんなにいるのか。私は連絡がきたのでやっていることを知ったが、年齢層が高い人はそのような情報を入手できないと思われる。イオン方面から帰るときに必ず眉山が見える。その見えるところに何かあったり、何かやっているのが見えたりすればいいと思われる。今回の方針とは異なるかもしれないが、観覧車などがあればよいのではないか。そういうものがあれば行きたいという意欲がそそられると思う。そのような考えはあるか。

(事務局)

1つのコンテンツとして、視覚的に訴えかけるものがあればいいと思う。徳島市としては、民間活力が大事になってくる。収支等も含め、サウンディングで民間事業者と話し合って進めていきたい。

(委員)

どこから見ても眉山の頂上は見えるし、藍住からでも見える。何か建っていたら目を引き付けられると思う。それがかなり強い広告になると思われる。

(事務局)

広告の部分については、公園緑地課ではないが、経済部の方で夜間にロープウェイのLED化と、鉄塔をLEDで照らす事業化に向けて取り組んでいる。様々な色で照らせるので、経済部と連携を図りながら、イベント時にはこの色という風な工夫も考えられるので、今後、担当部局とも話してみる。

(会長)

夜景を見せようと思ったらその箇所に明かりをつけてはいけない。夜景を作るところに明かりをつけると台無しになってしまうのでそこは注意していただきたい。

(副会長)

阿波おどり会館、ロープウェイ、鉄塔をLEDで照らそうという話はある。都市建設部としてこのプロジェクトをやっているが、にぎわい関連のノウハウは経済部の方がよく知っている。徳島県からもウォークアブルな街づくりの話も来ている中で、今年の夏には西新町で新たな周遊船乗り場(新町川を守る会)もでき、そこから乗り降りもできるようになる。西新町から、阿波おどり会館、ロープウェイ、そして眉山への流れができる。来年度以降、経済部も参画してもらっていいのではないかと思う。この委員会での了解も得られたらと思うが、いかがだろうか。

(会長)

民間連携もそうだが、庁内連携もぜひ進めていただけたらと思う。

LEDは、眺望場所に照らすのではなく、空に向かって照らすので良いと思う。

(委員)

観光客の視点に立った時に基本的にロープウェイで上がられると思うが、この際に登山道にスポットを当てて、調査するなどの話はあったりするか。

(事務局)

登山道についても色々ご指摘は頂いている。登山道の行き方もよく分からないという話もあり、歩きにくいという声があることも認識している。第二期の工事に移行した際には、登山道にもフォーカスして、道中の岩がむき出しのところには木道を作るなど、びざんミーティングのメンバーにも登山を愛好される方がいるので、しっかりと意見を伺いながら進めていきたい。過度に手を入れすぎると、登山道の魅力を無くしかねない点も加味して進めていきたい。

(委員)

自転車の場合はどうなるか。

(事務局)

自転車で登られる方も多く、その中で自転車の駐輪スペースがないということも認識している。自転車で来られる方にとっての魅力的な施設について何があるか課内で協議している。今後、民間事業者に対するサウンディング調査の中で聞き取りし、自転車で来られる方の利便性を高める施設を考えていきたい。

(委員)

観光誘客の観点から、阿波おどり会館とともに眉山についてご案内することが多い。ロープウェイだけでなく、徒歩、自転車でも行けると案内することで、眉山をより発信でき、強調もできる。お客様の選択肢も増えるという点で早くご案内できるようにしっかりと整備を進めてもらえたらと思う。

(会長)

まずはウェブサイト情報を掲載し、しっかりと整備前にも周知すればよいと思われる。

(委員)

サウンディングについてだが、今年度に徳島県にぎわい政策課が、公園参加者のサウンディングを行っており、ウチノ海総合公園、新町川公園、月見ヶ丘海浜公園が対象であった。進め方が丁寧で、説明会、ワークショップ、サウンディングをすべて業者に委託していた。ワークショップにて、提案書を提出後、1時間くらい各社(20くらい)の説明を聞いていたが、この例を参考にしてはよいのではないかと思った次第である。

(事務局)

色々な情報を参考にして丁寧なサウンディングをしていくつもりである。

(会長)

オープンなサウンディングは色々なところでやっている。国交省が募集している例もあり、周知活動にもつながるので取り組んでいただけたらと思う。

(委員)

懸念事項であるが、海月から駐車場までいく車道の北側を伐採されていると思うが、ごみが非常に多い状況がある。伐採しない部分もごみがあると目につくので対策をお願いしたい。キャンプイベントで野生動物の被害があれば大変と書かれていたが、山頂のトイレ前のベンチでムカデを発見したことがある。定期的に殺虫剤を噴霧した方がいい。あとはスズメバチやマムシもいるが、イノシシも増えてきている。50年くらい眉山に上がっているが、先日初めて昼間にイノシシを3回見た。毎日散歩している人に聞くと、イノシシが猫の餌を食べに来ているとのこと。眉山病院や西部公園で猫に餌をやっている人がおり、猫の餌は栄養価が高いのでイノシシが増えていく懸念がある。公園緑地課が管轄ではないかもしれない。イノシシが増えたら人と接触する懸念もあるため、対策をお願いする。

(事務局)

関係部局と連携を取りながら、ムカデについては眉山公園を管理する指定管理者がいるので、そのような情報を共有し対策について指定管理者と協議していく。猫の餌がイノシシを呼んでいるというご意見も関係部局にお伝えする。この場だけでなく、公園緑地課に連絡してもらえれば、関係部局にお伝えする。

(委員)

その話を聞いて思い出したが、西の方から散歩で上がった際に初めてイノシシを見たという話があった。ハイキングベースでの諸注意として発信していかなければならないと思った次第である。

(副会長)

経済部の農林水産課で対応している。イノシシやサルがいるとは聞いていたが、そんなに頻繁に現れるとは聞いていなかった。頂いた情報を私からも伝えておく。

(会長)

来年度の取り組みについては、びざんミーティングもすることになるのか。

(事務局)

サウンディングについては2月から行い、その結果を含めて来年度のできるだけ早い段階でこのような場を作らせてもらい、活動に関して皆様のご意見を伺いたい。併せて実証実験のイベント開催について、経済部とも協力しながら、びざんミーティングの方々の考えもいただきながら進めていきたい。

(会長)

実際のプランは、サウンディングの結果も踏まえて、令和9年度から開始するというので、3か年をかけて西側の整備をしていくということで承知した。